



# NEWS

No. 196  
July 2023

(公社) 日本工学アカデミー広報委員会

Office : 〒101-0064

東京都千代田区神田猿樂町二丁目7番3号

HKパークビルⅢ 2F

Tel : 03-6811-0586

Fax : 03-6811-0587

E-mail : [academy@eaj.or.jp](mailto:academy@eaj.or.jp)

URL : <https://www.eaj.or.jp/>



## 第11回(通算第27回)定時社員総会ご報告

常務理事 睦 哲也 / TETSUYA MUTSU

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが、5月8日から「5類感染症」扱いに移行しました。準備段階では、この機に対面開催復活を期待するご意見も多数寄せられておりました。一方、蔓延隆盛傾向との時期的な重なりも否めなかったことより、今年も悩ましい決断に直面しました。「個人の選択の尊重と自主的な取り組みを基本とする対応」の始まりとは言え、慎重な議論の結果、会員をはじめ全ての関係者の皆様の安全安心の確保を最優先とし取り進めることを確認し、オンライン開催にて挙行いたしました。併せて、本年度につきましても、書面による事前の議決権行使を極力お願いした結果、予想をはるかに上回る数の議決権行使状の返信を頂戴することができました。オンライン形式には依然改善の余地はございますが、お陰様で、大きな問題もなく、定時社員総会を終えることができました。この場を借りて、改めて社員の皆様のご理解とご協力に心より感謝申し上げます。因みに、6月2日の当日、事務局の少人数が運営基地であるホテル東京ガーデンパレスに結集しました。折からの、台風2号の影響を受けた梅雨前線の停滞により全国的な荒れ模様となり、足元はおぼつかない状況でした。しかしながら、現場では、緊張のなかにも落ち着いた面持ちで、開始直前まで準備に余念がありませんでした。いつもながら、事務局の地道な活動を心強く感じた機会でもあります。

準備が整い、13時の定刻を迎え、第11回定時社員総会成立の宣言がなされました。6月2日時点の在籍総正会員数は、814名。これに対して、書面による事前の議決権行使正会員数は501名、事前に議決権行使を行わず当日オンラインにて参加した正会員数が17名と確認されたことより、出席正会員総数は518名に確定しました。在籍総正会員数の過半数408名に達したものです。定款に基づき、小林喜光会長が議長を務めることとなり、議長その他、菱田公一理事、城石芳博理事、行木陽子理事が議事録署名人に指名されました。

議案審議の前に、辻篤子監事より監査報告が行われ、業務及び会計について適正に処理されている旨のご報告がありました。

第1号議案の「理事選任の件」について、城石芳博専務理事より、公益社団法人東京財団政策研究所所長 安西祐一郎会員の、任期2024年度社員総会の終了時までの理事選任について説明があり、審議の結果、出席正会員総数518名の賛同が得られ、原案通り採決されました。併せて、事前にお問い合わせがあった、議案書中の理事会承認事項2)についても、補足説明がなされました。

続いて第2号議案の「2022年度事業報告」について、城石芳博専務理事より、スライドによる補足説明

も交えて説明があり、審議の結果、出席正会員総数518名の賛同が得られ、原案通り採決されました。

第3号議案の「2022年度収支決算」については、睦哲也常務理事より説明があり、審議の結果、出席正会員総数518名の賛同が得られ、原案通り採決されました。

最後に報告案件として、睦哲也常務理事より2023年度事業計画と収支予算について説明がありました。

定時社員総会終了後、第48回理事会がオンライン形式にて開催され、安西祐一郎理事の副会長ご就任、国際活動活性化、広報委員会活動等の議案について審議が行われ、予定した時間を若干超えましたが、休憩後の事業表彰式、EAJフォーラムに影響を及ぼすことなく終了しました。

以上、会員の皆様より厚いご支援を賜り、定時社員総会と理事会をつつがなく終了することが出来ました。今後も改善に努めてまいりますので、主要会議、行事の運営等につきまして、お気づきの点がございましたら、事務局までご意見をお寄せくださいますと幸いです。尚、2024年度より、総会のご案内、資料送付、事前の議決権行使等を電磁的方法に切り替える予定です。事前のご案内を行い、ご理解を得ながら取り進めることといたし、引き続きご協力の程何卒宜しくお願い申し上げます。



## 定時社員総会関連行事 事業貢献賞表彰報告

定時社員総会実行委員会委員・企画運営員会議議長代理 城石 芳博 / YOSHIHIRO SHIROISHI

第11回定時社員総会に合わせ、“会員が選ぶEAJ活性化事業貢献賞表彰”が6月2日に開催されました。これは、EAJの事業の発展にご尽力いただいた委員会・支部・会員の皆様に感謝を込めて表彰させて頂くとともに、会員の皆様にEAJ事業への理解をより深めて頂き、会員間の連携や支部・委員会の連携などの更なる強化、共創をめざして頂くべく昨年度に企画、実施されたものです。昨年度は、“組織基盤・会員増強貢献賞”に柚原義久前事務局アドバイザー・元事務局長、大江田憲治会員強化委員会幹事、“EAJ活性化 事業貢献賞”に林秀樹前広報委員長、“EAJ活性化報告書賞”に渡辺美代子前ジェンダー委員会委員長、原山優子ポストコロナ検討委員会共同議長、“EAJ活性化行事賞”に関谷毅若手委員会委員長、“林良嗣中部支部支部長”が、会員からの多数の推薦を受け、表彰されました。

2回目となる今回は、会員から100件推薦を頂きました。共創による組織基盤活性化、緊急提言、インクルーシブなSTEM研究環境、持続可能社会に向けたSTIロードマップの提言、STI for SDGsにおけるアフリカとの連携などの報告書、若手委員会公開シンポジウム、ジェンダーシンポジウム、サイエンスアゴラ出展、政治家と科学者の対話の会、新入会員ガイダンス・談話サロン、賛助会員ラウンドテーブル、CAETS、FOE Japan、EA-RTMなどの委員会活動、九州・関西・中部・東北・北海道支部活動でのシンポジウム・レクチャーなどの行事活動、賀詞交歓会、EAJ NEWS特集号などの広報事業活動、などに関して多数の得票がありました。定時社員総会実行委員会、企画運営会議などでの慎重な審議の結果、表に示す9件が選ばれ、小林会長から受賞者の皆様に表彰状と記念品が授与されました。誠にありがとうございました。なお表彰式では、原則として代表者にオンラインで登壇頂きましたが、“会員が選ぶ組織基盤活性化貢献賞”では、東北支部 神本正行支部長が所用のため長坂徹也副支部長に、“会員が選ぶ報告書賞”で

## 2022年度 会員が選ぶEAJ活性化事業貢献賞 受賞者・受賞案件・会員推薦理由

定時社員総会実行委員会、企画運営会議 2023.05.22r5

|   | 部門              | 受賞者                 | 受賞件名                                               | 会員推薦理由                                                                                           |
|---|-----------------|---------------------|----------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ① | 会員が選ぶ組織基盤活性化貢献賞 | 神本 正行 東北支部 支部長      | 東北支部発足記念シンポジウム「女性起業家への道－第一歩から成功までのノウハウ－」           | 北海道支部共催、ジェンダー委員会・NICHe協賛、MASP後援と、他機関との多様な共創で、女性起業家から豊富で有益な体験提供を頂くなど、共創による組織基盤活性化への貢献の大きな活動。      |
| ② | 会員が選ぶ事業貢献賞      | 永野 博 政策共創推進委員会 委員長  | 第6回 政治家と科学者の対話の会                                   | EAJ側の話題提供というこれまでの形式から、国会議員側の問題提起に基づき、自由に考えを述べ合い、新しい考え・政策を打ち出すという挑戦的な事業で、メディアにも大きく取り上げられるなど事業貢献大。 |
|   |                 | 山田 淳 九州支部 支部長       | 九州工学教育協会シンポジウム「これからの九州の工学教育」                       | 次世代を担う優秀な若きエンジニアの育成に貢献すべく、九州・沖縄各地域の特性を踏まえながら、地区の高校や高専の生徒・学生、若手を対象としたシンポジウムで、九州支部としての特徴のある事業を継続。  |
| ③ | 会員が選ぶ報告書賞       | 沖 大幹 STI2050委員会 委員長 | 持続可能社会に向けた科学技術・イノベーションロードマップの提言 / The Road to 2050 | 地球環境と共存する健全な人間社会構築のため、将来ビジョンからバックキャストしたイノベーション、アクションプランをまとめたもので、工学系研究者の指針になる報告書。英語版も作成し、国際的に発信。  |
|   |                 | 牧原 出 プロジェクトリーダー     | インクルーシブなSTEM研究環境の構築                                | 当事者の現状、意見を集約、提出先毎に整理、時間軸を含めて要望し、受け取った側の優先順位付けの参考となるようにも工夫されており、我が国では前例のない報告書。早期社会実装への期待大。        |
| ④ | 会員が選ぶ行事賞        | 行木 陽子 ジェンダー委員会 委員長  | 第6回 EAJ ジェンダーシンポジウム ～デジタル社会における「新しい学び方」～           | 会員の声（多様性アンケート）を反映、中高教育現場で多様な進路選択、将来を描けるシンポジウムを開催。平日でもライブ参加80名超、期間限定アーカイブ配信再生は111回を記録。事業貢献大。      |
|   |                 | 林 良嗣 中部支部 支部長       | 第15回 EAJ 中部レクチャー「ハイブリッドプリウス生誕25周年記念シンポジウム」         | 開発実務統括者からハイブリッド自動車の開発成功の決め手になった要因が語られ、会員のみなならず非会員の市民に工学と地方独特の価値を伝え、工学アカデミーに親しみを持っていただけた有意義な行事。   |
|   |                 | 田中 敏宏 関西支部 支部長      | 第9回講演会「医工融合により進める教育と研究」                            | 日本初の医療機器を創る大学院設置者による、医学と工学を結ぶ学問体系の想起・構築、発展に関する話題提供で、学際領域の新たな拡張、新たな教育の可能性が期待された示唆に富む講演会行事。        |
|   |                 | 増田 隆夫 北海道支部 支部長     | 北海道支部－茶話会「カーリングを科学する」                              | 北海道地区ならではのカーリングホール見学、北京オリンピック銀メダル祝賀記念講演など、工学を身近なものとするべく、工夫満載の茶和会方式行事で、北見工大教職員学生・北見市民を含め約150名参加。  |



は、STI2050委員会 沖大幹委員長が所用のため有川太郎幹事に、インクルーシブなSTEM研究環境の構築では、牧原出リーダーが所用のため、熊谷晋一郎副リーダーに、“会員が選ぶ行事賞”では中部支部 林良嗣支部長が所用のため、八重樫武久支部委員に、代理で登壇頂きました。

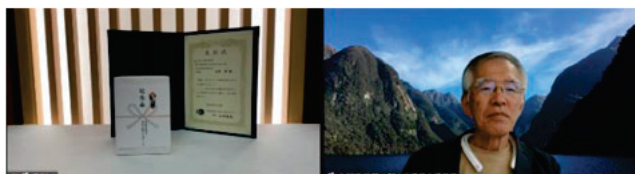
最後に、各受賞部門を代表して、東北支部 長坂徹也副支部長、政策共創推進委員会 永野博委員長、STI2050委員会 有川太郎幹事、ジェンダー委員会 行木陽子委員長から、今後の抱負なども含めたご挨拶があり、授賞式は盛会裏に閉会となりました。受賞された諸活動に尽力頂きました、委員会、支部のご関係の皆様方の日頃のご尽力に、心より御礼申し上げますとともに、僅差で受賞に至らなかった多くの皆様がおられたことを付記させて頂き、EAJ理念の「Engineer the Future」早期実現に向けた、引き続きEAJ活性化に向けご高配下さいますようお願いさせて頂いて、報告とさせていただきます。



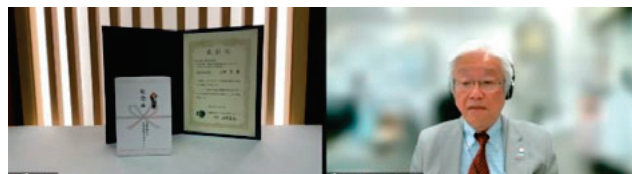
小林 喜光会長



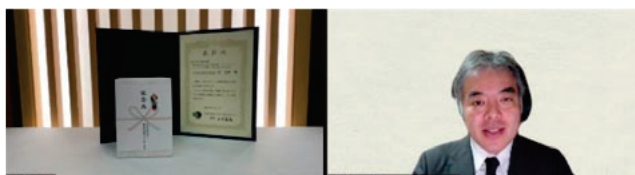
① “会員が選ぶ組織基盤活性化貢献賞”  
東北支部 長坂 徹也 副支部長



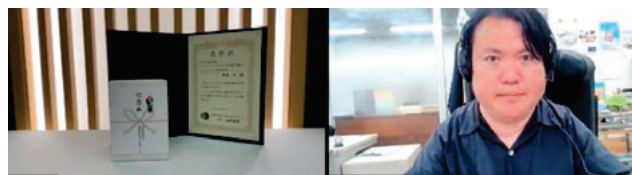
②-1 “会員が選ぶ事業貢献賞”  
政策共創推進委員会 永野 博 委員長



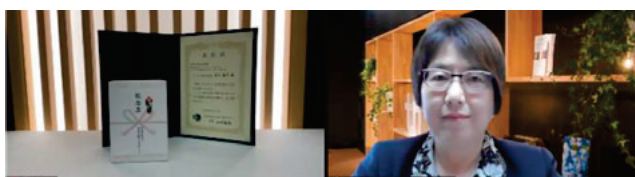
②-2 “会員が選ぶ事業貢献賞”  
九州支部 山田 淳 支部長



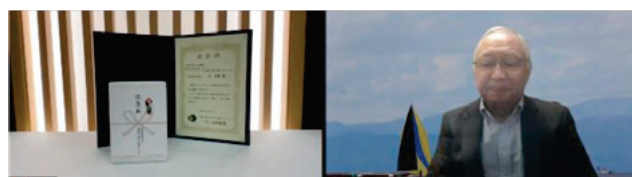
③-1 “会員が選ぶ報告書賞”  
STI2050委員会 有川 太郎 幹事



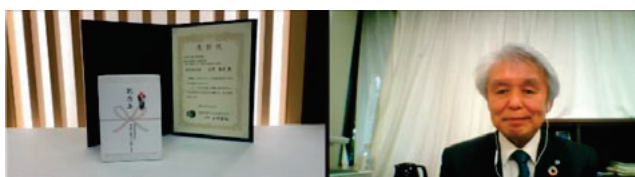
③-2 “会員が選ぶ報告書賞”  
STEMプロジェクト 熊谷 晋一郎 副リーダー



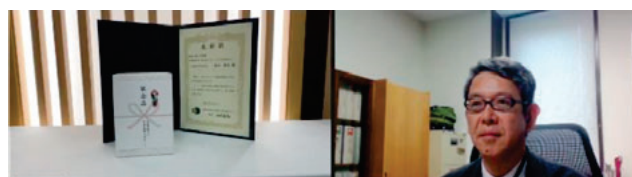
④-1 “会員が選ぶ行事賞”  
ジェンダー委員会 行木 陽子 委員長



④-2 “会員が選ぶ行事賞”  
中部支部 八重樫 武久 支部委員



④-3 “会員が選ぶ行事賞”  
関西支部 田中 敏宏 支部長



④-4 “会員が選ぶ行事賞”  
北海道支部 増田 隆夫 支部長

定時社員総会実行委員会 委員長 菱田 公一 / KOICHI HISHIDA  
(文責) 同委員 城石 芳博 / YOSHIHIRO SHIROISHI

第6回 EAJ フォーラム「再生医療の最前線」が、6月2日(金)第11回(通算第27回)定時社員総会、事業貢献表彰式に併せ、オンラインウェビナー方式で、森本浩一常務理事の総合司会により15:00-16:45に開催された。事前登録者数は218名で、産業界からの登録が多いのが目立った。ただし当日、台風2号の接近に伴ない、西日本から東日本にかけて線状降水帯が発生して激しい雨が降り続き、東海や関東、近畿などで記録的な大雨となり、鉄道の運行見合せが相次いだためか、ウェビナー参加者は145名であった。

まず小林喜光会長から、来賓、講演者、参加者への御礼と、本日の総会、理事会で安西祐一郎会員が理事、副会長に就任され、また事業貢献表彰式では9件を表彰させて頂いたこと、さらに本フォーラムが佐藤正人新入会員の賀詞交歓会挨拶を契機にボトムアップで企画された旨の報告と説明があった。最後に、生成AIの急速に進化・普及で、人間の根源的な進化が今まで以上に求められるようになっており、人類の安寧とより良き生存のために、EAJはアカデミーとしての存在意義を自覚しながら、“未来社会を工学する”という高い理念やパーパスの発信とその社会実装の推進に今まで以上に取り組んでいきたい、との思いが述べられた。次いで、医学博士、弁護士、再生医療ベンチャーの設立者であり、先端医療に関する小委員会 委員長、地方創生及びデジタル社会の形成等に関する特別委員会 委員長などを歴任された古川 俊治参議院議員の来賓挨拶があり、日本が世界をリードする再生医療の早期社会実装、イノベーションエコシステムの構築、医工連携の活性化、ビックデータ解析・AI創薬などSTI総合知を活かす産学官連携などの重要性、日本の優位性を生かす工学技術、EAJへの期待が述べられた。

続いて、澤芳樹会員による基調講演「心筋再生医療の現状とみらい」があった。心不全のパンデミックともいえる現状(患者130万人)に対し、補助人工心臓、細胞移植法の課題と、IPS細胞由来心筋細胞による心筋再生治療に向けた医師主導治験終了までの、医工連携を駆使した未踏の挑戦、さらに再生医療の現状と展望が語られた。恩師Schaper教授の“What is Truth?, Truth is Science. Surgeon should be artist and even scientist.”との含蓄に富んだメッセージと、“再生医療はScience and Art”であるとの、澤会員の体験に基づく示唆に触れ、VUCAとなり、人間の根源的な進化が求められている時代にあって、自分事として、基礎科学の重要性、社会実装に向けた挑戦者・開拓者としてのあるべき姿、初心を思い起こすことのできた意義深い基調講演であった。

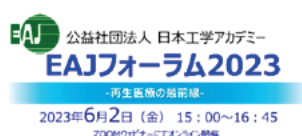
続いて、パネル討論「再生医療とWell-being-標準的治療としての発展に向けて-」が、菱山豊会員をモデレータとして開催された。パネリストは、澤芳樹会員、佐藤正人会員、紀ノ岡正博会員、国立医薬品食品衛生研究所 薬品部長(再生・細胞医療製品部長併任) 佐藤陽治氏、(株)日立製作所 専門理事・研究開発グループ技師長・日立神戸ラボ長 武田志津氏である。最初にそれぞれから自己紹介と、標準的治療としての発展に向けた活動状況、課題、取り組みなどが、以下のように述べられた。まず澤会員からは、ライフワークのなかでの医工連携、産学連携、“医療はScience and Art”であれという恩師の教えの重要性、佐藤正人会員からは、変形性膝関節症への、オーダーメイド(先進医療B)、レディメイド(企業治験準備中)、ポイントオブケア(医師主導治験)での取り組み事例と、標準的治療としての発展に向けた高品質製品の安定供給の重要性について、紀ノ岡会員からは、企業間を超えた細胞製造コトづくり拠点での、治療、資金、細胞、知、人、チーム、情報の好循環の実現をめざす技術開発の取り組み事例、オールジャパンでの活動に加え、グローバルジャパンに向けたコアジャパン拠点の重要性について、佐藤陽治氏からは、再生医療製品の有効性を予測するための重要品質特性を掘り当て、不均質性を見える化する技術とその学問としての



研究の重要性と最前線の研究事例などについて、武田氏からは、Well-beingに向けて再生医療が果たす画期的な役割と、再生医療の標準治療化に向けた安全性、品質安定性、製造コスト面での自動培養技術・装置が果たす役割とご自身の取り組み状況についてなど、それぞれ多様な観点からの話題提供があった。続く討論では、再生医療のような新しいモダリティに対しての、品質の科学的根拠とレギュラトリーサイエンス、規制と並行した実効ある開発を実行するためのアカデミアと政府との連携、低コストと高品質の両立に向けた自動化プロセスと装置の開発などの重要性、世の中にはお手本が存在しない再生医療の普及に向けては、新たにコトを起こすことが重要で、レギュレーションと人の連携、特に産学官と患者の連携が重要になること（例えば、治療が必要な膝関節症患者は800万人もいるが、凹脚患者1万人を対象にすることで現実的で効果的な治療ができる）、さらには、コアジャパン拠点、自家細胞再生医療、ミニ臓器提供など次のステップ<sup>①</sup>に向けた新たな挑戦への期待、など、未踏の領域に挑戦しておられる先生方の貴重な体験と叡智とが、パネル討論を通じて参加者と共有された。再生医療の標準医療化、普及、グローバル展開に向けて、医工政民連携全般に関わる課題について深く理解を深めることができ、人類の安寧とより良き生存に貢献すべく、多様な困難・課題解決に向け、自ら開拓者として姿勢に、強く勇気付けられた。

最後に菱田公一会長代理から、古川俊治参議院議員、澤芳樹会員、パネル討論メンバ、参加者への御礼と、ボトムアップで企画された非常に示唆に富む会となったフォーラムが、医・工・政・民連携により、我が国が誇る再生医療を標準的治療として発展させていくための一助となり、この発展形として、EAJとして共創による未来への挑戦を進め、政策提言や総合知活用の実効性を高め、「人類の安寧とより良き生存」の実現に一層貢献すべく、今後ともEAJの諸活動へのご協力をお願いしたい、との閉会挨拶があり、オンラインフォーラムは盛会裏に閉会した。

なおフォーラム後に実施したアンケートでは、再生医療の全体像・最先端、探求心/社会実装をめざした研究開発/現場重視の研究/基礎科学/ベンチャー/臨床体制・制度改善/技術融合/医工連携(ニーズとシーズのマッチング)/レギュラトリーサイエンス/コスト/治療戦略/産学官政共創/エコシステム構築/AI・ブックデータ活用などの重要性が良く理解できた、本質的な問題が真摯な議論されて良かった、次も期待したい、などのお声を頂きました。一方、もう少し時間を取って議論が深められれば良い、とのご意見も頂きましたので、今後の企画に反映させて頂きたいと思います。貴重なご意見、有難うございました。



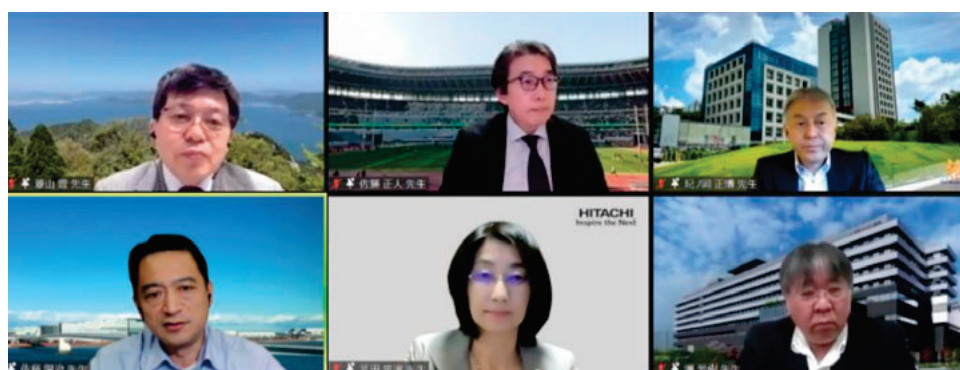
開会挨拶 小林 喜光会長



来賓挨拶  
古川 俊治参議院議員



基調講演 澤芳樹会員



(写真) パネル討論登壇者  
(上：菱山 豊会員、佐藤 正人会員、紀ノ岡 正博会員、  
下：佐藤 陽治氏、武田 志津氏、澤 芳樹会員)



総司会 森本浩一 常務理事



閉会挨拶 菱田 公一 会長代理

EAJ 理事・東北支部理事 長坂 徹也 / TETSUYA NAGASAKA  
東北支部専務理事 岡田 益男 / MASUO OKADA

EAJ 東北支部発足記念シンポジウム「女性起業家への道－第一歩から成功までのノウハウ－」が、令和5年3月7日(火)13時30分よりオンラインで開催された。田中真実教授(東北大学医工学研究科)の司会で、長坂徹也EAJ理事(東北大学副学長・NICHEセンター長)より開会の挨拶と本シンポジウムの趣旨説明、並びに「何故いま女性起業家促進なのか」の紹介がなされ、引き続き、次の5件の講演があった。

まず、森田純恵教授(秋田県立大学システム科学技術部情報工学科)による「EAJ ジェンダー委員会の活動と農業ビジネス国オランダの異分野融合～その成功事例からみる多様性と女性起業～」と題した講演がなされた。異分野融合によりオランダの施設園芸が活発化しており、今後、日本においても情報工学を積極的に取り入れたスマート農業の推進が重要になることが紹介された。

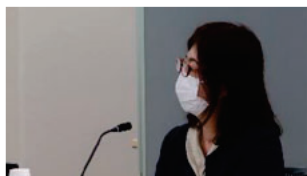
次に、飯塚博EAJ東北支部理事(山形大学理事・副学長)による「アントレプレナーシップ開発センターの発足」と題して、山形大学のアントレプレナーシップの取組みについて紹介がなされた。

約10分間の休憩後に、山崎瑤樹代表取締役(株ベジ・アビオ)(新潟大学経済学部OG)による「農業ビジネスへの挑戦」として、スマート農業でフルーツトマトの冬季生産、高付加価値商品生産に取り組んでいることが紹介された。

北川尚美教授(東北大学工学研究科化学工学専攻)による「私はこうして起業した－教員起業の実例」として、イオン交換樹脂の新たな触媒機能を活用し、大学主体での低コスト量産装置を開発するファイトケミカル(株)を設立し、未利用資源からバイオ燃料やビタミン製造について、研究室規模から大規模製造まで取り組んできた経緯などが紹介された。

梶山愛代表取締役(株クレインバスキュラー)(前東北大学大学院医工学研究科学生)による「私はこうして起業した－学生起業の実例」として、透析患者・医療従事者の負担の軽減などを目的に、血液透析患者における「動静脈シャント狭窄」を低減する製品の開発について紹介された。

本講演会は、「EAJ 北海道支部」の共催、「日本工学アカデミージェンダー委員会」と「東北大学未来科学技術共同研究センター(NICHE)」の協賛、「みちのくアカデミア発スタートアップ共創プラットフォーム」の後援により、東北支部発足記念シンポジウムとしてオンラインで開催され、66名の参加があった。



司会：田中真実 教授



長坂徹也 EAJ 理事



森田純恵 教授



飯塚博 EAJ 東北支部理事



山崎瑤樹 代表取締役



北川尚美 教授



梶山愛 代表取締役

日本工学アカデミー・関西支部では2023年3月10日に第9回講演会「医工融合により進める教育と研究～新しい医療機器の開発研究と創造的開発人材の育成～」を神戸大学滝川記念学術交流会館にて開催しました。神戸大学では2023年度より医学研究科に医療創成工学専攻を設置し、日本初の医療機器を創る大学院を始動し始めました\*。この機会に、医学と工学をむすぶ学問体系がどのように想起・構築され、現在まで発展してきたのか。また、医療の発展に資する医療機器を創造する方策として、異なる学問分野である医学と工学の間で相互理解を深めて融合した学問体系として研究・教育分野において発展するのかを、大学院の設置にたずさわった先生方をお招きし、「医工融合により進める教育と研究」と題した講演会を開催しました。



向井敏司（神戸大学未来医工学研究開発センター長）による講演の様子

その内容は、村垣善浩（神戸大学未来医工学研究開発センター教授）による「医工融合による臨床技術の発展とスマート手術室SCOTの実現」、向井敏司（神戸大学未来医工学研究開発センター長）による「医工融合による医療機器・システムの開発研究」、菅野公二（神戸大学未来医工学研究開発センター教授）による「医工連携による研究科横断の大学院教育」、福本巧（神戸大学大学院医学研究科・副研究科長）による「新しい医療機器創造に向けたカリキュラム教育の実践」と、この学際的分野の現状を知ると同時に、学際的分野の研究に裏付けられたあらたな教育の可能性を知る良い機会となりました。

講演会はハイブリッドで開催され、延べ51名の参加をいただきました。神戸大学では2025年度には医学部に医工連携による新学科を予定します。今後の工学教育の可能性を考えるうえで、このような学際領域の拡張はさまざまな示唆をあたえてくれそうです。

\* 2023年度は大学院博士前期課程15名、博士後期課程12名が入学しました。

企画推進グループ、政策提言委員会、会員強化委員会、財務機能強化委員会  
(文責) 企画推進グループ 中山 智弘 / TOMOHIRO NAKAYAMA

2023年3月28日(火)開催の第5回新入会員ガイダンスでは、前回と同様に、新入会員に加えて一般の会員にもEAJ事業の全体像、プロセスなどをより広くご理解いただき、EAJの諸活動に新たな視点で積極的にご参画頂くための一助とすべく、談話サロン(通算195回)も兼ねて開催することとした。

期末でのご多用のなか、9名の新入会員にご参加頂き、計21名の関係者が参加した。始めに、小林喜光会長から、幅広い学問分野、学際分野の有識者、多様な新入会員の皆様へのお祝いと、今後ともぜひ一緒に未来社会を工学していきたい、との祝辞が述べられた。次いで、一人2分程度での、新入会員自己紹介があった。多様な新入会員の皆様の、多彩なご経歴、抱負、EAJへの期待などを共有でき、これを機に、ネッ



トワークが広がり、Well-beingに向けて「Engineer the Future」で貢献することをめざすEAJの更なる発展につながることが期待された。

ガイダンスでは、城石芳博専務理事から、EAJの沿革、理念、主な活動概要、委員会・プロジェクトの活動状況、2022年度事業概要などの説明と、EAJの諸活動を支えるのは多様な会員であるので、新鮮な視点での委員会、支部、プロジェクト活動などへの参画や、多様な会員候補者の推薦などのお願いがあった。続いてEAJ委員会活動の例として、永野博政策共創推進委員会委員長から、我が国の、国会議員および立法府関係者と科学者、メディア関係者などが協働し交流できる場を提供し、立法府と科学者の政策共創の実現を図るために設立された政策共創推進委員会の組織、活動事例の紹介と、着実に実績を積み上げるべく今後の進め方について広くアイデアをいただきたい旨の依頼があった。アカデミーを自負するEAJとして、国会議員と工学者・エンジニアの政策共創の必要性、意義を立法府(議員だけでなく立法府全体)、行政府、メディア、科学者に訴えていく、一つの確実な動きに繋がることを期待される。最後に城石芳博専務理事から閉会挨拶として、期末のご多用の中ガイダンスにご参加下さった皆様への御礼と2023年度EAJ事業計画の説明があり、With/afterコロナ、新しい資本主義の時代における新常态への取り組み、科学技術リテラシーのみでなく、政策リテラシーへの展開など、EAJの理念である“Engineer the Future”の実現に向けた諸活動への積極的な参加への期待が述べられ、本会は盛会裏に閉会した。

今回もオンラインでの開催となったが、アンケートの結果によればEAJの活動についてより深くご理解いただけており、充実したガイダンスとなった。頂いたご意見などを基にガイダンスの更なる充実を図るとともに、新入会員ガイダンスなどを機会に、新入会員の方々には新たな風をEAJに入れて頂き、EAJの更なる活性化に繋げて頂ければ幸いである。

### 195回談話サロン・第5回 新入会員ガイダンス 2023年3月28日(火)16:00~17:00



オンライン 195 回談話サロン・第 5 回新入会員ガイダンスでの集合写真



## 第17回 EAJ中部レクチャー開催報告 個人情報の保護・活用とその技術

中部支部企画推進部会 伊藤 みほ / MIHO ITO

2023年4月21日(金)、日本工学アカデミー中部支部(EAJ中部)主催、同関西支部協賛により、第17回EAJ中部レクチャーがオンラインWebセミナー形式で開催された。講師は、内閣府、総務省、経産省などの個人情報の保護や活用に関する専門委員会でもご活躍されている、株式会社DataSign代表取締役社長の太田祐一様、演題は「個人情報の保護・活用とその技術」であった。参加申込数は約50名で、学生、

大学研究者、企業技術者、弁理士など、様々な職種や年齢層の方にご参加いただいた。

林支部長による開会挨拶と講師紹介の後、講演がスタートした。講演では、近年、欧米を中心に世界各国で個人情報に対する規制の強化が進んでいること、日本や欧州、アメリカの規制強化の概要と、規制強化の中でどのようなデータ活用が行われようとしているか、最新のWeb技術の紹介と具体的な事例を交えて、世界の潮流や日本の取り組みを紹介いただいた。講演詳細は以下の通りである。

個人情報を利用したオンライン広告の市場規模は、世界で63兆円、日本でも1.5兆円と予測されているが、データ活用ビジネスが出現し始めたのは2010年頃からである。データ活用によるマネタイズの一例としては、Facebookなどに出てくる広告が、類似顧客ユーザー、リターゲティング、学歴などに合わせて、個人に適した広告が出てくることが挙げられる。Facebookのデータ収集は、いいね！ボタンなどの行動履歴やウェブの利用情報、他社からデータ購入した購買履歴や年収などから広告内容を決定している。インターネットが普及した今日では、個人はあまり意識することなく、様々なサイトにアクセスし、数多くの事業者が個人情報を含むデータを送信しているが、それらの恩恵を受けている事業者が存在することも理解すべきではある。

次に、個人情報の不適切な利用について触れられた。例えば、Facebookなどで他ウェブサービスにログインすると、ウェブサービス側にFacebookアカウントでログインした人とその友達に関する個人情報が提供される。これらのデータを不適切に利用した事例が2016年のケンブリッジアナリティカ事件であり、この事件を機に、世界中で個人情報保護に関する規制強化が進んだ。最近の世界各国の個人情報保護の情勢を見ると、2021年以降、規制が強化されており、日本でも2022年には個人情報保護法が改正され、2023年6月には改正電気通信事業法が施行される予定である。また、アメリカでは、これまで連邦取引委員会がデータの不正利用に際して罰金を科すなどしてきたが、州単位で個人情報保護の法律が相次いで制定されており、間もなく連邦法も制定される予定である。更に、欧州では、GAFAMなどのプラットフォーマーに多額の制裁金を科したり、Google Analyticsの使用を違法としたりする国もある。2020年には欧州司法裁判所がプライバシーシールドを無効と判断したが、現在は解決のための協議が進められている。

上述のように、現在、個人情報の保護・活用においては、法律によってプラットフォーマーが個人情報を簡単に収集できないようにするという動きと、個人情報を含むデータを広く活用してほしいという相反する要求の両立が求められている。例えば、Googleの渋滞情報は、ユーザーの位置情報から予測されており、多くの人が恩恵を受けているが、そのようなデータは事業者側が保有しており、個人に帰属していないため、個人の権利やプライバシーに対する課題がある。こういった課題を解決するために、近年、データ活用のパラダイムシフトが起こりつつある。個人が自らのデータを持ち、事業者側に必要に応じてデータを提供するという形式であり、実現に向けては、個人のプライバシーや権利が強化されるだけでなく、個人情報の流通・活用に向けた技術的な進歩が重要である。

講演最後には、データ活用の最新技術についても紹介いただいた。Web3.0は、ティム・バーナーズ＝リーが提唱した概念であり、それを具体化したSolid Projectでは個人が自分の個人情報をPODというPDS(パーソナルデータストア)に格納し、そのデータのアクセスは個人がコントロールすることが可能となる。しかし、PODを誰が管理するのかという課題が残っており、プラットフォーマーによる管理になる可能性が危惧されている。また、Web3はギャビン・ウッドが提唱した概念であり、ブロックチェーンに基づく非中央集権型のオンライン・エコシステムであり、取引履歴を全て公開することによるトラストであるが、個人情報を全て公開するという点で個人データの利活用という観点では普及が進まないと考えられる。これらに対して近年、DID<sup>\*</sup>、VC<sup>\*</sup>、SICP<sup>\*</sup>など分散型アイデンティティという手法も提唱されている。これらの技術はW3C<sup>\*</sup>やOIDF<sup>\*</sup>などの国際標準化団体で標準化され、Identityを分散化することで、プラットフォーマーに偏りすぎないデータ活用を普及させようとする取り組みで、日本ではTrusted Webプロ

ジェクトが推進されている。

以上のように、個人情報の適切な流通・活用を実現するためには、個人の権利を守りつつも、テクノロジーの進化に伴って新しい手法を探り、個人情報の分散管理を実現するような仕組みが必要であり、個人情報を保護しながら最新技術を取り入れることで、個人情報の新たな活用が期待されている。

講演後の質疑応答では、参加者から規制に関する質問などが多くあり、講師からの回答には、中国の規制状況や最近話題のChatGPTに関わる内容も含まれ、個人情報保護と活用に関する参加者の理解が更に深まった。また、質疑終了後に、原副支部長の閉会挨拶があり、「データの流通促進と規制強化の両立をバランス良く取っていく全体最適のためのデータガバナンスの構築が大切」という言葉で締めくくられた。

講演後の参加者アンケートでは、「今後のビジネスにおいて、個人情報の保護や適切な活用がますます重要になってくることがわかり、非常に示唆に富んだ有意義な講演であった」という声が多く寄せられた。

### 〈※ご参考〉

DID: Decentralized Identity, VC: Verifiable Credentials, SICIP: Structure and Interpretation of Computer Programs, W 3 C: World Wide Web Consortium, OIDF: OpenID Foundation

### 謝辞

最後に、貴重な講演を行っていただいた株式会社DataSign代表取締役社長の太田祐一様、ならびに、本レクチャーに協賛いただいた関西支部の関係者各位に感謝申し上げます。

The image displays the promotional materials and content for a webinar. The top section includes a title slide for the 17th EAJ Middle Lecture, featuring speaker Yuichi Ota of DataSign, scheduled for April 21, 2023, from 18:00 to 19:30. A detailed timeline on the right lists the event's structure: opening (18:00), opening remarks (18:05), lecture (18:10), Q&A (19:10), and closing remarks (19:25). Below this, a slide titled 'Global Regulations (Strengthening Individual Rights)' compares data protection laws across the EU (GDPR), Japan (APPI), and the US (ADPPA). A table indicates the presence of various rights like data portability, individual rights, deletion, and cross-border data transfer. The bottom section, titled 'Web3', poses the question 'Trustless? Non-centralized?' and shows a diagram of a decentralized network. It lists key Web3 concepts: Ethereum ecosystem, MetaMask, and NFTs. On the right side of the bottom section, there are two video thumbnails: the top one shows Yuichi Ota speaking, and the bottom one shows a panel discussion with two participants.

|           | ヨーロッパ<br>GDPR | 日本<br>個人情報保護法 | アメリカ<br>ADPPA |
|-----------|---------------|---------------|---------------|
| 情報の対象範囲   | ◎             | △             | ◎             |
| 個人の権利     | ◎             | △             | ○             |
| 削除        | ◎             | ×             | ○             |
| 外国へのデータ移転 | ◎             | ○             | △             |

**Web3**

トラストレス？非中央集権？

- ・ 映画にはEthereumエコシステム
- ・ MetaMask等のETHウォレットを鍵として入る世界
- ・ 取引履歴（決済・NFT保有）を公開することによるトラスト



本年7月18日(火)から20日(木)まで早稲田大学リサーチイノベーションセンターカンファレンスルーム「コマツ100周年記念ホール」で開催される標記シンポジウム(以下JAFOE)に先立ち、日本側参加者による事前勉強会を5月8日(月)にJST別館1Fホールにて開催しました。

この会の目的は、JAFOEの特色をよくご理解いただいてシンポジウムに参加していただくこと、そして、異分野の話題について米国研究者と議論するため、各セッションテーマについての予備知識を得て、自身の研究や経験と関係づけた問題提起の練習の場を提供することにより、JAFOE参加の効果を高めることです。異分野交流を主眼とするJAFOEでは、スピーカーが高度な研究内容を異分野の研究者の知的好奇心を刺激するように話すことを期待されていると同時に、聴衆も、単に発表を聴くだけでなく活発な討議に参画することが求められています。自分自身の疑問点を解決するための質問でなく、議論を誘発するような問題提起の練習の場として活用していただくため、運営委員(セッションチェア)及びスピーカー・招待討議者30名のほぼ全員が会場およびオンラインにて参加し、議論を深めました。

原山優子EAJ国際委員長からの開会挨拶に続き、小林治JST国際部長からのご挨拶、所千晴JAFOE2023運営委員長(会議のチェア)から趣旨説明を行った後、各セッションの運営委員による司会のもとスピーカーによる日本語での10分間のプレゼンテーションでそれぞれの発表内容について理解を深めました。招待討議者については5分間のプレゼンテーションでポスター発表の内容が紹介されました。

プログラム中盤には今回の日米研究者の交流の機会を実際の研究推進に結びつけることを目的に、JST国際部佐藤優樹様より先端国際共同研究推進事業についてのご説明をいただきました。また昼休みの時間を利用して、元運営委員長を務め、現在はJAFOEをサポートする実行委員会のメンバーである中島義和、金谷一朗両会員から「過去のJAFOEで何があったのか?」をテーマにスペシャルトークが展開されました。

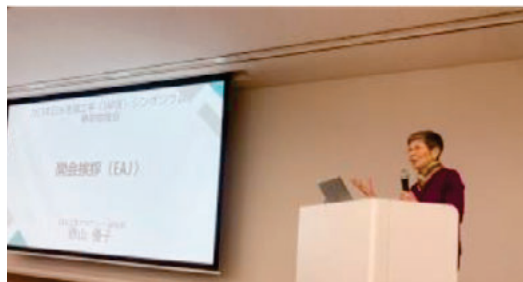
午後と同様に各セッションと招待討議者の発表が続き、全体討議の後、村上秀之JAFOE実行委員長からの統括と所千晴運営委員長からの閉会挨拶を以て、10時から17時30分までの長時間に渡る事前勉強会は終了しました。どのセッションにおいても、参加者から大変積極的な質疑応答が繰り広げられ、JAFOE当日の米国側参加者との議論が今からとても楽しみに感じております。

なお、今回のセッションテーマは次の4つで構成しています。事前勉強会以上に、JAFOE本番も熱い議論が繰り広げられることを期待しております。

- Materials by Design/ 沼田圭司運営委員(京都大学)
- Computational Approaches to Address Infectious Diseases/ 夏目やよい運営委員(医薬基盤・健康・栄養研究所)
- The Arduous and Exciting Path to the Development of Successful Mobility Exoskeletons/ 宮崎 哲郎運営委員(東京大学)
- Circular Economy/ 天沢 逸里運営委員(東京大学)



JAFOE 事前勉強会の様子



開会の挨拶 原山優子顧問・国際委員長

日 時：2023年6月6日(火) 16時00分～17時30分

場 所：衆議院第二議員会館 多目的会議室(1階)

話 題：生成AIをはじめとしたAIの社会実装、利活用に向けた共創

参加者：61名(過去最高)

伊佐 進一 衆議院議員、大野 敬太郎 衆議院議員、大串 正樹 衆議院議員、小林 鷹之 衆議院議員、小林 史明 衆議院議員、新妻 秀規 参議院議員、三浦 信祐 参議院議員(7名の議員の参加は過去最高)、永野 博 政策共創推進委員会委員長、菱田公一 EAJ会長代理、嘉門雅史 前会長代理、政策共創推進委員会委員(小泉、牧原、城石 各委員 他)、政策共創プラットフォーム委員(五十嵐、吉村、原山、北原委員)、若手委員会委員(関谷委員長、川原委員) 他 EAJ 会員 等

#### 概 要：

伊佐議員から開会にあたって「食料の安全安心の確保に関して日米間で科学的知見に基づく基準が大事、という議論になるが、科学者と政府がどのような基準を決めても、それに伴うリスクに関して国民の理解を得るための対話の重要性が高まっている。」とのご挨拶があり、続いて、新妻議員から、前回の対話の会のフォローアップ(企業税制、知財関係)に関して、五十嵐プラットフォーム委員から報告がなされたことに関する謝意が述べられた。その後本日話題提供に移った。

今回の対話の会では、まず、森健策名古屋大学大学院情報科学研究科教授、EAJ 5G/6G時代のAI利活用戦略プロジェクト プロジェクトリーダーから、『5G/6G時代のAI利活用戦略』政策提言プロジェクトが紹介された。また、続く報告では、岡崎直観東京工業大学情報理工学院教授から、ChatGPTをはじめとした生成AIとその社会実装が紹介された。さらに、中島義和東京医科歯科大学教授から、AI全般の解釈と、社会実装における課題が紹介された。

以上のような話題提供を受けつつ、今後の検討の方向性に関して、議員と会員の間、また会員相互の間で極めて活発な意見交換が行われた。そのためか、議員側から、「次回は議員側から話題を提供する会にしたい。」旨が述べられた。

最後に大野議員から、「生成AIの関連は政治サイドでも大変盛り上がっている。イノベーションの点からも前向きにとらえていくべき課題であり、この対話の会での議論もとても良い雰囲気で行うことができた。」との閉会の挨拶があった。



講演する森教授、その左へ順に岡崎教授、中島教授、関谷阪大教授、川原東大教授(すべて前列)



対話の会の様子

## 2023 年の会員の表彰 菅裕明会員のウルフ賞受賞を祝って

副会長 川合 眞紀 / MAKI KAWAI

東京大学大学院理学系研究科教授である菅裕明会員が、ウルフ賞の化学部門を受賞されました。心からお祝い申し上げます。

今回の受賞は、菅教授の「生物活性ペプチドの創製を革新するRNA触媒の開発」に関する業績が認められたものになります。菅教授は、既存のペプチド医薬品開発の常識を覆す「特殊ペプチド創薬」という概念を提唱し、望みの生物活性を示す薬剤候補ペプチドを生み出すオンリーワン技術の開発に成功しました。本技術は、近年隆盛を極めるペプチドを基盤とした中分子医薬品研究の先鞭となりました。実際に関連技術は世界各国の大手製薬企業に技術移管され、社会実装が進んでいます。



菅裕明会員

ウルフ賞は1975年に設立されたウルフ財団（イスラエル）が1978年から授与している賞であり、化学、農業、数学、医学、物理学、芸術の分野で国際的に卓越した業績をあげた科学者および芸術家に与えられる賞です。本年の授賞式はイスラエルにて2023年6月15日に執り行われました。

菅裕明先生は東京大学で教鞭をとる傍ら、内閣府の総合科学技術・イノベーション会議の有識者議員、日本化学会会長として我が国の科学行政への助言や研究コミュニティの取りまとめにも大いに貢献されております。日本工学会アカデミーは菅先生のますますのご発展をお祈り申し上げます。



写真1 ウルフ賞授賞式にて、ウルフ財団からの表彰を受ける菅裕明先生



写真2 ウルフ賞化学部門受賞者：左から Jeffery W. Kelly(米国スク립ス研究所教授), 菅裕明(東京大学教授), Chuan He (米国シカゴ大学教授)



## 新入正会員のご紹介

(2023年5月入会者)

### [第1分野]

あだち こうし  
足立 幸志



#### 東北大学大学院工学研究科副研究科長 教授

1964年生まれ。1990年東北大学大学院工学研究科機械工学専攻修士課程修了後、東北大学大学院工学研究科 助手。その後、同講師、助教授、准教授を経て2011年より現職。博士（工学）。2020年より東北大学教育研究評議会評議員。2022年より東北大学大学院工学研究科副研究科長（研究担当）。専門は表面と接触面における科学技術と定義されるトライボロジーであり、近年は自己治癒型超低摩擦システムの研究に従事。「摩擦と摩耗の制御に立脚した高機能機械システム創成の研究」にて、2022年度文部科学大臣表彰科学技術賞（研究部門）受賞。International Tribology CouncilのExecutive committee、日本機械学会フェロー。「まずは接触し、議論を戦わせ、とことん擦り合わせる」というトライボロジーマインドを礎に異分野融合、産学連携、産学共創に取り組んでおります。

さわだ けいすけ  
澤田 恵介



#### 仙台高等専門学校 校長

大学院時代より一貫して数値流体力学に関連した研究に取り組み、大学院では宇宙物理学の連星系流れ場に関する研究、民間企業就職後は航空機周りの遷音速流れ場解析実現、大学に移って以降は主に探査プローブの惑星大気圏突入時の空力加熱・熱防御問題に携わりました。また、高精度高効率な数値解析手法の開発やバフエットやフラッターなどの航空機周り流れ場の非定常問題にも取り組みました。2021年4月から現職の高等専門学校に移りましたが、高校生と同じ入学年齢の学生に早期専門教育を施すユニークな高専教育にアドバンテージを感じています。その一方、大学とは別種の課題も多く、より良い高専運営の道筋を探す日々が続いています。EAJの諸先輩方よりアドバイスをいただければ幸いです。

やまもと もとじ  
山本 元司



#### 九州大学大学院工学研究院 工学院院长 工学部長 工学府長

これまで、産業用のロボット・メカトロニクス機器制御に関する研究、歩行アシストロボット制御など福祉ロボットに関する研究をおこなってきました。また、NHKの大学ロボコンやヒューマノイドロボットコンテストの学生チームを長年指導してきたことから、プロジェクトベースラーニング、デザイン思考教育等の実践的ものづくり教育にも興味を持っております。

### [第2分野]

いとう あきのり  
伊藤 彰則



#### 東北大学大学院工学研究科 教授 研究科長

1963年生まれ。1991年東北大学大学院工学研究科博士後期課程修了。工学博士。東北大学応用情報学研究センター、東北大学情報処理教育センター、山形大学工学部を経て、2002年に東北大学大学院工学研究科通信工学専攻助教授、2010年から同教授、2021年4月に同研究科長。2019～2021年日本音響学会会長、電子情報通信学会フェロー。専門は音声情報処理、音声認識・対話システム、コミュニケーションロボット、外国語教育システム、音響情報処理、音楽情報処理など。現在の研究プロジェクトでは学習者が仮想キャラクターと対話しながら講義動画を視聴する「バーチャル・クラスメート」の開発を行っている。人間と機械のかかわり、技術と人間社会、教育などにも興味がある。

かとう  
加藤 ジェーン



### 立命館大学情報理工学部 教授

私は加藤ジェーンと申します。名古屋大学大学院情報学研究科で准教授を務めた後、現在は立命館大学情報理工学部の教授をしています。主にコンピュータビジョン、機械学習、知能情報処理の研究・教育に携わっています。専門分野では、自動運転・安全運転支援のための歩行者早期検出や高齢運転者の認知負荷の自動推定、有害コンテンツの自動フィルタリングのためのビデオ暴力度の自動評価、そして深層学習の安全性・解釈性を高めるためのニューラルネットワークの判断根拠の解析や学習データの漏洩防止に興味を持って研究しています。今後は、画像・映像を活用したAI技術の社会実装や機能発揮にさらに貢献したいと考えています。また、日本工学アカデミーの活動を通じて、異なる分野間の国際学術交流や女性科学者・技術者の国際的な活躍の促進にも貢献したいと思っています。

## [第3分野]

えびな たけお  
蛸名 武雄



### 産業技術総合研究所東北センター 所長

1964年岩手県一関市生まれ。1993年東北大学大学院工学研究科博士後期課程修了(工学博士)。1993年通商産業省工業技術院東北工業技術試験所研究官。1997年と1999年にカリフォルニア大学サンタバーバラ校在外研究。2010年にClayteam設立。2013年コンパクト化学システム研究センター首席研究員。2017年10月よりナノテクノロジー標準化国内審議委員会材料規格分科会主査。2019年河北文化賞受賞。2021年より産総研東北センター所長。2022年ISO TC229 Sendai meeting 実行委員長。幅広く複合材料を研究する。アスベストを用いないガasket、加熱すると耐水化する粘土、水素を通さないガスバリア材料、燃えない複合材、食洗器で洗える漆器などを開発。サステナブル社会の確立を志向し、天然・合成にかかわらず物質の組成・形状・構造を生かすものづくりである「めぐみものづくり」を提唱。

やしろ ひとし  
八代 仁



### 岩手大学理工学部 学部長 教授

大学卒業後、縁あって岩手大学に務めることとなり、すでに40年近くを盛岡で過ごしております。この間、主として腐食防食分野で研究活動が続けて参りました。東日本大震災を経験した地域にあって、この10年余は種々復興活動にも携わりました。工学を学ぶ学生には、工学の持つ社会的使命感に目覚めてもらうことを教育目標の一つとしております。復興活動はある意味で、わかりやすい工学教育の題材でもあったと感じています。現在、特に地方は人口減少をはじめとする様々な課題に直面しており、日本工学アカデミーが掲げる「未来社会をどのように工学するか」、は切実な課題です。持続可能な社会を築いていくために工学が果たすべき役割について、主導的な発信をする場の一員に加えていただいたことを重く受け止めるとともに、今後は微力を尽くしていく所存です。

## [第6分野]

つちや のりよし  
土屋 範芳



### 八戸工業高等専門学校 校長

私は、東北大学で長く教育と研究に携わり、現在は八戸高専の校長を務めている。資源工学を専門とし、地質学、岩石学をバックボーンとして、金属やエネルギー資源の形成プロセス、天然資源探査法の開発、また資源の開発と地圏環境についての研究を進め、沈み込み帯における岩石と流体の相互作用に関する研究を行ってきた。さらに、地熱エネルギーの探査と開発技術の研究を行い、現在は超臨界地熱エネルギーの研究に注力している。また、地域社会に受け入れられる開発の在り方を考える必要があり、再生可能エネルギーの社会受容性に関する研究も行っている。

しばらくは大学にも籍を置き、先端的研究に取り組むとともに、高専では次世代を築く若者の教育に熱意をもって取り組んでいきたい。工学は常に進化している。社会の基盤となる工学、次の社会を築く工学、さまざま工学に携わりながら、心豊かで持続的な社会づくりに貢献していきたい。

## [第8分野]

しおみつ のりこ  
塩満 典子



### 国立大学法人広島大学 学術・社会連携室未来共創科学研究本部 副本部長 研究戦略部長 特命教授

科学技術庁（現・文部科学省）に1984年に入り、2022年まで、ライフサイエンス、原子力、宇宙、情報分野等の科学技術・イノベーション行政に長く携わりました。出向した内閣府男女共同参画局では、2006年度に初めて予算化された女性研究者支援事業の政策立案、理化学研究所では、加速器・重元素科学、JAXAでは、航空・宇宙技術、JSTでは、科学技術システム改革事業など、科学・工学分野の研究開発の推進・研究者支援を行ってまいりました。奈良先端科学技術大学院大学、お茶の水女子大学で「研究資金獲得法」に習熟した後は、関連の講演機会も多く、現在は、広島大学、山陽小野田市立山口東京理科大学、中部大学で、「研究力」の向上に尽力しております。我が国の研究水準の国際的地位の低下が指摘される中、ゼロサムではない、新しい共創工学的アプローチが重要と感じており、皆様のご意見をお聞きできることを楽しみにしております。



## INFORMATION



相川 賢太郎 会員  
2023年1月17日逝去 95歳  
三菱重工業株式会社 名誉顧問

1978年  
1988年  
1989年

科学技術功労者表彰科学技術庁長官賞  
紫綬褒章  
EAJ入会

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



高柳 誠一 会員  
2023年1月23日逝去 93歳  
株式会社東芝 元常任顧問

1990年  
1992年  
2002年

科学技術庁科学技術功労者表彰  
EAJ入会  
IEC会長

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



野田 健一 会員  
2023年2月1日逝去 96歳  
拓植大学 名誉教授

1987年  
2004年

EAJ入会  
瑞宝小綬章

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



伊藤 學 会員  
2023年2月12日逝去 92歳  
東京大学 名誉教授

1992年  
2014年

EAJ入会  
瑞宝中綬章

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。





小林 久志 会員  
2023年3月9日逝去 84歳  
プリンストン大学 名誉教授

1979年

アレクサンダー・フォン・フンボルト財団  
U.S. Senior Scientist賞  
EAJ入会

1992年

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



大野 榮一 会員  
2023年3月27日逝去 89歳  
三菱電機株式会社 社友

1980年

科学技術功労者表彰  
EAJ入会

1997年

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



松本 栄寿 会員  
2023年5月23日逝去 88歳  
日本計量史学会 元副会長

2007年

EAJ入会

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



## 編集後記

皆さん、いかがお過ごしですか。あっという間に2023年もちょうど半分が過ぎたところです。私の住むウィーンも観光シーズンを迎え、街のシンボルであるシュテファン寺院の周辺には観光客が溢れています。

さて、私は当アカデミーの中では比較的若手に属する部類（それ自体は問題ですが）ですが、そうは言っても齢61歳、昔ならば引退していても不思議ではない年齢です。しかしながら、生活のためにこうやって欧州くんだりまで出稼ぎに来て、若い頃とあまり変わらぬ仕事の仕方をしているので「働き方改革」どころではありません。

とは言え、この1年間、予算策定の仕事に忙殺される中で（と言ってもコロナ直後とエネルギー価格高騰で財政状況厳しい加盟国の大使閣下にペコペコ頭を下げて、「そこを何とか……」とお願いするのが主な任務ですが……）気づいたことがあります。

ヨーロッパ（あるいは国連？）には、「要約」という文化がありません。資料持ってきて、と頼むと、担当者はクソ長い、しかも結構難しい単語満載の紙を持ってきます。こっちは数字が2つと説明が2行くらいでいいのに。。。それをエイヤと割り切り、自分でパワーポイントの紙芝居を作って「これでいいだろ、文句ないよな！」と仕切ってから会議に臨む。やってみると意外に好評で、おかげで多少の予算増額も認めてもらいました。まあ、そんなこんなですが、日本人のビジネススキルは（語学を除き）決してガラパゴスではありません。だから若い人にはどんどん海外に出て欲しいものです。工学関係者も勿論例外ではありません。それではまた次回。  
(広報委員長 安永裕幸)